

会 議 要 録

会 議 名		令和 5 年度 第 2 回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和 5 年 9 月 2 6 日（火）午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分
場 所		小平市中央公民館 講座室 2
出席者 等	委 員	1 5 名（欠席者 2 名）
	事務局	子ども家庭部長、教育指導担当部長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		0 名
会議 内容	1 開 会 2 議 事 (1) 小平市子ども・若者計画の令和 4 年度推進状況について 3 情報交換・意見交換 4 その他 5 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 ・小平市子ども・若者計画推進状況報告書 ―令和 4 年度事業実施状況― ・ヤングケアラーとは ・子どもの虐待死を悼み命を讃える市民集会	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

1 議事

(1) 小平市子ども・若者計画の令和 4 年度推進状況について

事務局	「小平市子ども・若者計画」の令和 4 年度の推進状況についてとりまとめた。本日は、延べ 1 6 1 事業の中から、本協議会の事務局が関わる 1 4 の事業について説明する。
事務局	<p>はじめに、「No. 1 中学校放課後学習教室」について説明する。</p> <p>この事業は、小平市立中学校における学習内容の補充を目的に、各学校の実情に応じ、放課後や週末、長期休業期間中などに、地域の人材を活用し、補習やテスト前の学習教室、検定対策など学習支援を行うものである。市立中学校全 8 校区で実施し、令和 4 年度の教室実施回数は 3 0 8 回、参加者延べ人数は 6, 5 7 1 人であった。新型コロナウイルスの影響もあったが、令和 3 年度より教室実施回数、参加者延べ人数ともに増加している。</p> <p>次に、「No. 2 0 青少年リーダー養成講座」について説明する。</p> <p>この事業は、小学 5 年生から高校生を対象に、野外活動やレクリエーションなどの知識や技術の習得などを通して、地域で青少年リーダーとして活躍できることを目指し、年間を通して講座を開催している。青少年委員が、講座の企画・運営、子どもたちの指導を行い、また、講座の卒業生である大学生などの青少年リーダーも携わり、多様な年齢層や、さまざまな学校の児童・生徒たちが交流を図ることのできる場となっている。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、各回、対面やオンラインなど実施方法を検討し、</p>

	<p>おおむね通年で講座を実施することができた。</p> <p>次に、「No.2 1 中学校生徒意見発表会」について説明する。</p> <p>この事業は、市内各中学校の代表生徒が、ルネこだいらの大ホールで、自由なテーマで意見発表を行うものである。中学校PTA連合会、青少年委員会、青少年対策地区委員会代表者協議会、北多摩北地区保護司会小平分区、小平市更生保護女性会など、関係団体の方々にご協力いただいている。輪番で当番校となる中学校の生徒会が、その年のサブタイトルの考案や、ポスター等に用いるイラスト作成、また、当日の司会などの役割も担ってくれている。令和4年度は小平第四中学校が当番校となり、生徒会役員などが活躍してくれた。従前より市内の私立中学校にも参加を呼び掛け、市立中学校8校、白梅学園清修中学校、創価中学校及び、小平特別支援学校の合計11校の参加となった。</p> <p>なお、本事業は、「第1期小平市経営方針推進プログラム」の実施プログラム No. 8の「事業の精査と見直し」により、廃止が決定したため、令和4年度をもって廃止となる。</p>
事務局	<p>続いて、「No.3 4 ひとり親家庭学習支援事業」について説明する。</p> <p>この事業は、「No. 3 3 生活困窮者学習支援事業」と合同で実施しており、ひとり親や生活保護を受給している家庭など経済的な事情で塾などに通うのが困難な子どもの学習を支援し、学習習慣の定着や基礎学力の向上をめざすものである。また、学習面の支援だけでなく、生活習慣や学校生活、家族の問題等を抱えた子どもも少なくないことから、指導に当たる委託事業者とともに、子どもとの面談や家庭訪問なども行っている。対象年齢は、小学校6年生から、中学生までに加えて、高校生相当年齢までとしている。</p> <p>利用状況としては、集合型は延べ58人、派遣型は延べ5人が利用した。効果としては、学力の向上だけでなく、不登校であった子どもが学習支援をきっかけに学校に行き始め、高校進学を果たしたといった実績もあり、それぞれの目標に着実に近付いているものと捉えている。</p> <p>その他、週1回の学習に加え、居心地のいい場所として安心・安全で継続的に通うことができるよう、参加者同士の交流や仲間づくりにつながるイベントや、外国人講師による英語コミュニケーションイベントを実施した。このイベントを通じて、今まで同じ教室で話したことがない子ども同士の交流が生まれ、教室内の雰囲気が和やかになるなど一定の効果が見られた。</p> <p>令和5年度は、令和4年度の事業内容を引き続き実施している。</p> <p>次に、「No.3 9 若者応援ガイドブックの発行」について説明する。</p> <p>この冊子は、若者に関する情報を幅広く掲載し、必要な情報を若者に届けることを目的として、令和3年度から作成している。すべての若者が活用できるものではあるが、特に家庭状況により家族からのサポートが得られないなど、子ども・若者計画の趣旨である困難を抱えた若者を対象としたものである。</p> <p>令和4年度版の若者応援ガイドブックは、児童養護施設退所者の中に外国籍の方が増えてきているといった現状を受け、新たに外国語で相談できる窓口の情報を掲載するとともに、ヤングケアラーについて中高生の認知度向上や相談窓口の周知を行うことを目的として、ヤングケアラーの一般的な定義や、相談窓口の情報を掲載した。</p> <p>配布先については、市内中学校、都立高校、大学、児童養護施設をはじめ、民生委員児童委員や社会福祉協議会など、実際に若者の支援に携わる方々にも活用していただくべく広く配布している。また、市内公共施設等にも配置し、あわせて、市ホームページや、市公式ラインなどでも周知していく。</p>

事務局	<p>続いて、「No.4 2 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置」について説明する。</p> <p>スクールカウンセラーは、専門的な知識を要する東京都の臨床心理士を各小・中学校に1名配置しており、児童・生徒のいじめや不登校等の未然の防止、また、ストレスや不安の軽減・解消を図っている。心理的な側面から、子どもたちや保護者の支援をする目的があるため、基本的には学校の相談室にて相談業務にあたっている。</p> <p>一方、スクールソーシャルワーカーは、学校と家庭、関係機関を繋ぐ調整役となる役割である。福祉的な側面から家庭そのものへの支援を重視し、各中学校区に1名配置している。</p> <p>次に、「No.4 4 教育相談室」について説明する。</p> <p>この事業は、心理士の資格を有する相談員が相談活動にあたっている。令和4年度の相談件数は、電話相談と面接相談をあわせて、1, 439件となっており、増加傾向にある。</p>
事務局	<p>続いて、「No.4 5 民生委員・児童委員への支援」について説明する。</p> <p>民生委員・児童委員は、福祉全般に関する地域の身近な相談相手として、市民へ必要な情報提供を行い、市民の皆様と関係機関とのつなぎ役を担うとともに、地域のネットワークづくりにも携わっている。</p> <p>今現在、101名の民生委員・児童委員と、地域の子どもの福祉に関する相談・支援を専門的に担当する12名の主任児童委員が、6つの地域に分かれて活動しており、市は事務局として、活動の周知・広報や、会議・研修を実施するための準備等において支援している。</p> <p>子ども分野の相談・支援件数は638件と、全体の3, 640件に対し、17.5%となっている。</p> <p>次に、「No.6 8 社会を明るくする運動」について説明する。</p> <p>「社会を明るくする運動」は、全ての国民が、犯罪や非行の防止と、あやまちを犯した人の立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動である。</p> <p>令和4年度は、7月の強調月間に市内3駅で駅頭広報活動を実施したほか、保護司の方々が市内の小中学校等を訪問し、非行防止に関しての情報交換を行ったほか、犯罪や非行のない明るい社会を築くために思うことについて、市内の中学2年生に作文をお願いし、作文集「ひまわり」を発行した。</p>
事務局	<p>続いて、「No.7 4 児童養護施設退所者への支援情報の提供」について説明する。</p> <p>実施内容として、「若者応援ガイドブック」を児童養護施設へ配布し、情報提供を行った。なお、令和5年度版の若者応援ガイドブックは、民間企業と協同発行し、より見やすく魅力のある内容へ更新していく。あわせて、児童養護施設退所者にとって必要な情報についても引き続き情報収集を行い、若者応援ガイドブックに必要な情報を掲載できるよう検討していく。</p> <p>発行時期については、令和6年2月を予定している。</p>
事務局	<p>続いて、「No.8 1 生活困窮者自立相談支援事業」及び、「No.8 2 住居確保給付金の支給」について説明する。</p> <p>この2つの事業は、生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者の自立の促進を支援するために実施する必須事業である。令和3年度に引き続き、「こだいら生活相談支援センター」を福祉会館に設置して、生活に困っている方からの相談を受けるとともに、離職等により経済的に困窮し、住居を喪失、</p>

	<p>または喪失する恐れのある方に対し、家賃相当額となる「住居確保給付金」を支給した。新型コロナウイルス感染症の日常生活への影響は長期化しており、令和4年度は、落ち着いてはきたものの、依然として、相談や、住居確保給付金の支給は多い状況となっている。</p>
事務局	<p>続いて、「No.109 青少年対策地区委員会活動の支援」について説明する。</p> <p>青少年対策地区委員会、いわゆる「青少対」の活動は、小平市の青少年健全育成施策の大きな柱のひとつであり、19の市立小学校ごとに、地域の方々のボランティア組織である地区委員会が設けられ、各地区委員会の方々の創意工夫により、地域に根差した、さまざまな行事や活動が展開されている。</p> <p>令和4年度は、新型コロナウイルスの影響もあったが、令和3年度よりは活動が増え、補助金の交付額も増加している。</p> <p>次に、「No.130 放課後子ども教室」について説明する。</p> <p>この事業は、地域の方々が、学校施設等を活用し、学びやスポーツ、さまざまな体験の場などを提供する事業で、放課後等の子どもたちの安全・安心な居場所づくりとともに、地域の方々と子どもたちの交流の場ともなっている。小平市では、市立小学校区ごとに、地域のボランティアの方に実行委員会を組織してもらい、その実行委員会に教室運営を委託しており、地域に根差した活動が展開されている。令和4年度は、市立小学校全19校区で実施し、全校の合計教室実施回数は2,994回、参加者延べ人数は46,028人となった。新型コロナウイルスの影響もあったが、令和3年度より教室実施回数、参加者延べ人数ともに大幅に増加している。</p>
事務局	<p>続いて、「No.134 養育支援訪問事業」について説明する。</p> <p>養育支援訪問事業は、子ども家庭支援センターが要支援家庭であると判断した家庭に対し実施するものであり、養育に関する専門的相談のほか、必要な家庭に対して養育支援ヘルパーを派遣し、育児・家事支援を行っている。</p> <p>令和4年度はヘルパー派遣の対象年齢を1歳未満から12歳までに拡大するとともに、利用者の費用負担をなくすことで、生活困窮家庭にとって、より利用しやすくした。</p> <p>また、令和4年度からの新規事業として、食材配付事業を実施した。食材配付事業は、0歳から18歳までの児童がいる要支援家庭等に対して、子ども家庭支援センターで活動している子どもサポーターを派遣し、食材の配付等の食事支援を行うことで、家庭状況を把握するとともに、必要な支援につなげ、養育環境の改善を図ることを目的とした事業である。ヘルパー派遣とともに、必要な家庭へ直接届く支援として、令和5年度も引き続き実施していく。</p>
委員	<p>社会を明るくする運動について、中学校では具体的にどのような活動を行っているのか。また、その活動は児童・生徒に対してなのか、教員に対してなのか。</p>
委員	<p>保護司たちがそれぞれ小・中学校を訪問し、保護司と教員が情報交換している。内容としては、児童・生徒の学校での生活状況や、いじめ、青少年に関わる犯罪などである。</p>
会長	<p>青少年リーダー養成講座は、コロナ禍でどのような活動をしていたのか。また、子どもたちの参加状況はどうだったか。</p>
委員	<p>活動内容としては、例えば郷土を学ぶ目的で、うどん作り体験や、コマ図を基に市内散策を行うなどの活動を行った。</p>

事務局	参加状況については、ジュニアリーダーは毎回約30名程度が参加している。シニアリーダーは毎回10名程度が参加している。
委員	学習支援事業について、集合型・派遣型それぞれの応募者はどのくらいか。
事務局	集合型は定員50名に対して、それを上回る応募者がいたため、受講できずに待機していただいた方もいたが、年度の途中で退会等の異動もあったため、待機者はほぼ全員受講することができた状況である。また、派遣型は定員5名に対して5名の応募であったため、応募者全員が受講できている。

2 情報交換・意見交換

委員	小平警察署では、夏休み前に、各小・中学校において非行防止や薬物乱用防止のための啓発活動を行った。今後ともこういった啓発活動、あるいは警察が取り扱う事件等において、小・中学校や児童相談所をはじめ、各関係機関と連携していきたいと思っているので、ご協力をお願いしたい。
委員	夏休み明けの子どもたちの様子について、変化がないか見守りを継続している。また、先日文化祭を開催することができ、多くの地域のみなさまが来場してくれた。生徒たちも日頃の活動の成果を発表する場が持てたことに喜んでいて。残念ながらその後、一時的に感染症が流行してしまったが、オンライン授業などへの切り替え等を行い、教育活動を展開している。
委員	<p>国が虐待件数の統計を取るようになってから32年になるが、虐待件数は32年間増加し続けている状況である。児童相談所からはほぼ毎日、子どもの入所の相談が続いており、施設が満床のため受け入れを断らざるを得ない状況である。</p> <p>児童虐待に関連したイベントの周知であるが、毎年11月は児童虐待防止推進月間であり、その1つの取組として、虐待によって命を落とした子どもたちの追悼と虐待防止の啓発のための市民集会が開催されている。集会の中では、実際に子どもが亡くなった事件の様子を読み上げる講演があり、聞いてとても胸が痛くなる。また、児童養護施設で育った方による講演も予定されている。当日は会場の他に、動画でのライブ配信も行っているため、ぜひ多くの方に参加してもらいたい。</p>
委員	<p>毎年夏休み前に、地区を担当する民生委員がすべての小・中学校を訪問して情報交換をしている。コロナの影響でしばらく実施できなかったが、今年は3年ぶりに実施できた。学校にはスクールソーシャルワーカーがいて、子どもの支援という視点で家庭訪問等も実施しているが、民生委員は地域で活動しており、また、子どもから高齢者までを支援の対象としているため、地域の情報や家庭全体の情報など、学校が把握していない情報を提供することができている。</p> <p>また、重い相談を受けた場合など、一人で対応するのが難しいときは、他の民生委員とともに複数で対応するようになった。複数の広い視野で考えて対応できるため、支援が充実したと感じている。</p>
委員	<p>社会を明るくする運動として保護司が中学校を訪問した際には、学校側に時間をとってもらい、中学生に対して「保護司」や「社会を明るくする運動」についての啓発活動を行っている。</p> <p>また、最近関わる少年たちの中に発達障害の子どもが多くなっている。保護司は人と関わる仕事であるため、相手を知りながら対応していかなければいけないと考え、保護司会が発達障害の専門家を呼んで研修を実施した。今</p>

	<p>後も少年たちの状況に応じて、必要な知識を学びながら対応に当たっていき たい。</p>
委員	<p>青少年委員として青少年リーダー養成講座の活動に携わっている。今月は 子どもキャンプ場で1泊2日の宿泊体験を行った。子どもたちはテント張り や火おこし、炊事などを経験しながら楽しく過ごしていた。他にも、北海道 の小平町との交歓交流事業において、今年は小平町の子どもたちを小平市へ 受け入れ、市内各所を案内する活動や、原爆の日になんで広島へ子どもた ちを連れて行く活動も行った。</p> <p>今年度はコロナ禍が明けて地域の活動が増えてきていることもあり、青少 年対策地区委員会が実施するイベントに呼ばれたり、10月に開催予定の市 民まつりでもパルーンアートのブースを設けて参加する予定である。</p>
委員	<p>児童養護施設で働いているが、先日、施設の子どもの退所後の進路相 談をする機会があり、ぜひ私に相談したいと言ってくれた子がいた。私はそ の子と将来のことについての話をしたとき、その子が辛く苦しい時期を乗り 越えて今は前向きに生活できているので、迷いながらもその理由を聞いてみ た。するとその子は、とにかく苦しかったときに、自分が抱えていた重い荷 物を一旦置いてみようと考え、実際に置いてみたら体が軽くなり、前が見え るようになってきた。そこから、将来のことや、自分がやりたいことが少し ずつ見えてきて、どうすればそれが叶うのかを考え、行動することを繰り返 して今があるのだと教えてくれた。</p> <p>そして、そういった子どもたちにとって、信頼して話せる人が身近にいら ることや、安心できる子どもの居場所があることは、前に進んでいける活力に もなっており、とても大切なことだと感じる経験ができた。</p>
委員	<p>青少年に対してこれだけ多くの施策があることを知って驚いた。</p> <p>私自身は学生の頃にスポーツジムのインストラクターをしていた。現在は 社会人として働きながら、中学校の運動部の外部コーチとして活動している。 学校での部活動について、担当する学校の先生としては、自身にその部活動 の経験がないことや、放課後や土日の活動がある状況を負担に感じ、嫌がら れる傾向がある。そういった中で、外部コーチの活用は有効なのではないか と感じている。地域活動の一環で外部コーチの活用等を広げていくと、子ど もたちの学びの機会の充実や、ひきこもりや不登校の生徒への支援など、子 ども・若者計画の基本目標に沿った取組になると思う。</p>
委員	<p>小学校の学習補助員をやっているが、日々子どもたちを見ている中で、い ろいろな子どもがいて、また、子どもの数だけの家庭があるということを感じ ている。現場の先生も試行錯誤しながら授業を行っているため、私として も、子どもを支え、また、現場の先生の力になればと思い働いている。</p> <p>報告書について、これだけ多くの事業があるということを知った。こうい ったサポートを必要としている若者にこの情報が届くといい。生きるのに精 いっぱいだったり、なかなか将来への希望が持てない若者は、自分から情報 を求めることは難しいと思うので、困ったら周りに助けを求められる環境を 提供できるようにしてあげたい。</p>
委員	<p>コロナ禍で人との繋がりが激減し、私自身も高校3年生から大学生に至る 今まで、なかなか繋がりが持てない状況であった。地域での活動の中で、学 校になじめない子どもたちと関わりを持つことがあるが、若者応援ガイドブ ックや、放課後子ども教室、学習支援事業などの居場所づくりの施策がある ことを本日知った。また、子ども食堂の検討など、幅広い居場所づくりの施 策を今後も進めてもらいたいと感じた。</p>

委員	<p>放課後子ども教室に携わっており、十四小の3年生から6年生までの子どもと卒業生数名が行う和太鼓教室を実施している。周囲への騒音対策のため、通常は太鼓に毛布をかけて行うような工夫をしながら活動している。教室にはいろいろな子どもが参加していて、中には気になる子どももいるが、学校の先生や教室のコーディネーターの方と協力し、地域として育てていけるようにこれからも活動していきたい。</p>
委員	<p>中学生と高校生の子どものおこり、本日お話いただいたいろいろな施策は、学校を通して情報としては知っているが、子どもに勧めてみても恥ずかしさからか参加したがない。小学生のときは勧めれば参加していたが、年頃の青少年の世代になると参加しなくなるため、施策に辿り着くまでの過程が課題なのかなと思った。</p> <p>また、子どもがまだ小さかった頃、専業主婦であった私はずっと子どもと一緒に過ごしていたが、その際に公民館講座が大変有難かったのを覚えている。子どもを預けて講座を受講することができるため、その間自分1人の時間を持つことができ、また、その後に改めて子どもと向き合うことができたため、とても良かった。</p>
副会長	<p>八小の青少年対策地区委員会の活動に携わっているが、活動が大変だと感じる委員が増えてきたため、現在は1学期に1つの行事を行う程度の頻度で活動している。新しい委員が増えてくれれば少しずつ活動を引き継いでいけるのだが、なかなかそうもいかず、現在の委員も毎年歳を重ね、1人あたりの負担が増えているのが実態である。その中でそれぞれの会員の特性を活用し、うまく活動できるように工夫しながら取り組んでいる。</p> <p>現在の子どもの多くは多くの習い事をしており多忙なため、青少年対策地区委員会が行事をしても子どもたちが集まらないのではないかという懸念は常にあるが、結果として毎回、準備したものが足りなくなるほど大勢の子どもが集まってくれる。子どもたちのために、今後も活動を続けていきたい。</p>
委員	<p>不登校、ヤングケアラーなど、学校だけでは対応できない子どもたちを支援する施策が多くあり、また、内容も充実していて良いと思った。</p> <p>若者の目線からの意見としては、窓口への来所や電話での相談など、自ら行動を起こして相談するのは勇気がいるので、それよりはスマートフォンからメールやLINEなどで相談できるようになると良いと思う。また、スクールカウンセラーを常駐させるような体制も有効だと思う。子どもをとりまく環境の変化に応じて、相談窓口側も形を変えていくといったことも必要なのではないかと感じた。</p>
会長	<p>委員それぞれの立場から、いろいろなご意見をいただいた。事業に直接関わって活動されている委員の方々におかれては、ぜひ今日の話を持ち帰って、今後の活動に活かしていただければと思う。</p>